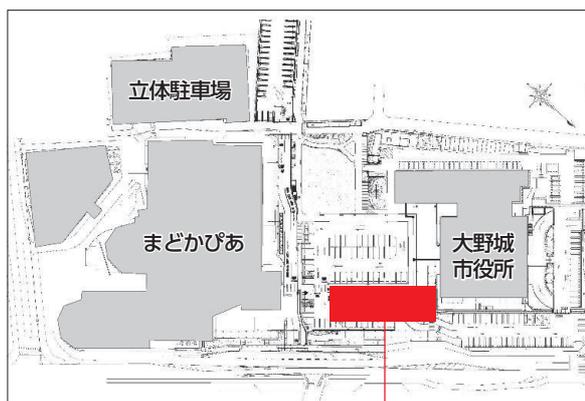


(仮称) 防災危機管理センター建設工事について

工事期間中は、市役所敷地内の歩道および駐車場の一部が使用できません。範囲や期間などの詳細はホームページに掲載し、工事進捗に合わせて更新します。
皆さんの協力をお願いします。

●**工事予定期間** 12月上旬～令和9年8月末まで

●**問い合わせ先**
財産管理課ファシリテイマネジメント担当
☎(580)1825



建設予定位置

(仮称) 防災危機管理センターの建物概要

●**構造規模** 鉄筋コンクリート造地上4階建 免震構造

●**延床面積** 約2450㎡

●**主な諸室**

1階 ◇備蓄倉庫◇業務継続計画実施の執務スペース

2階 ◇オペレーションルーム◇危機管理部執務室

3階 ◇災害対策本部室◇プレスルーム◇リエゾンルーム(関係者控室)

4階 ◇リエゾンルーム(調整会議室)◇サーバー室

※詳しくは、広報大野城4月15日号で、お知らせしています。



(仮称) 防災危機管理センター建物イメージ

大野城心のふるさと館のおすすめ②③

あけてみよう!

歴史のとびら

194

〈地域の宝!牛頸用水路〉

市内には、牛頸の北田井堰から上大利の三兼池を通り、春日市の池の頭池まで続く、全長約2・8kmの用水路があります。この用水路は、「牛頸用水路」と呼ばれ、地域の農業に重要な役割を果たしています。

江戸時代、白木原、上大利、春日の3つの村では近くの川の水が、村の田畑よりも低い位置を流れ、水不足に悩まされていました。米の収穫が不安定で、藩に税金(米)を納めることに苦労していた問題を解決するため、牛頸用水路が作られました。

弘化年間(1845年頃)に御笠郡の大庄屋・高原美徳と白木原村の庄屋・森山庄平が用水路の掘削を始めました。その後、藩の改革で工事が中断しましたが、明治10年(1877)に森山庄平の息子で白木原村の村長であった森山庄太によって工事が再開され、森山庄太と多くの人々の努力によってその年の2月に完成させました。

牛頸の北田井堰から三兼池までの高低差はわずか23mほどでしたが、池をトンネルや溝でつなぐことで、

水を流す仕組みを作りました。

水は、秋の彼岸(9月の秋分の日)の前後から春の彼岸(3月の春分の日)の前後)の間に取水され、三兼池や途中の池に蓄えられました。

こうして水の心配がいらなくなつた白木原、上大利、春日の3つの村では、田んぼを広げ、米をたくさん収穫できるようになりました。

心のふるさと館では、10月4日(土)から牛頸用水路の歴史や用水路の建設に大きく貢献した森山庄太さんを紹介する展示を行っています。



現在の三兼池

●**牛頸用水路展 米の収穫量がふえた!**

●**開催日** 11月30日(日)まで

●**問い合わせ先**

心のふるさと館文化財担当

☎(558)2209